

再発見 医

頭痛 ③

片頭痛治療薬、症状により違い

片頭痛の治療薬には、頭痛発作が起こった時に使う急性期治療薬と、頭痛がない日も毎日飲んで症状や頻度を軽くしたり、急性期治療薬の効果を高めたりする予防薬があります。

急性期には痛みや炎症を抑える薬が使われ、市販薬や処方薬として一般的です。何となく頭痛が起きそうな「予兆期」や、目の前がチカチカし始める「前兆期」といったごく初期に効果的です。

ただ、飲み過ぎると薬物乱用頭痛になって激しい痛みが慢性化することがあり、注意が必要です。月10日を超えるような場合は、主治医と相談して下さい。吐き気を伴う片頭痛では、痛み止めと一緒に吐き気止めを飲むと鎮痛効果が

柴田みえこ内科・神経内科

クリニック院長

柴田美恵子さん (53)



上がることがあります。

近年登場した「トリプタン」という薬は、上手に使用すれば片頭痛を劇的に改善できます。炎症を和らげながら、片頭痛を引き起こす物質の働きを防げてくれます。血管の拡張を抑えるので、ズキンズキンという痛みを抑えるのにも効果的です。

しかし、血管が縮むので、心筋梗塞や狭心症、脳梗塞、一過性脳虚血発作などの方は使えません。高血圧の方も注意が必要です。国内で5種類の薬が承認されており、すぐ効いてほしい時は注射や点鼻薬を使うこともあります。トリプタンが効きにくい場合は

「エルゴタミン」という古くから

の片頭痛薬も使います。カフェインを併用することもあり、眠気や疲労感、集中力低下などがある時にこうした症状を緩和したり、片頭痛治療薬の効果を上げたりすることが期待できます。トリプタンや痛み止めが使えない方、頭痛が重度な場合には、抗精神薬を処方することもあります。

予防薬は、急性期治療薬が十分に効かなかったり、頭痛の頻度が多くて日常生活に大きな影響が出ていたりする際に検討します。脳の血管をやや広げた状態で安定させるカルシウム拮抗剤、交感神経を鎮めるβ遮断薬やアンギオ

テンシン受容体拮抗薬などは本来、血圧を下げる薬ですが、片頭痛の予防に効果があります。

脳の神経細胞が興奮したり過敏になったりするのを抑える抗てんかん薬、脳内の神経伝達物質セロトニンを増やす抗うつ薬なども予防薬として使われます。アレルギンを抑える抗ヒスタミン薬やぜんそく薬、漢方薬が有効なこともあります。これらを、それぞれの症例にあわせて選びます。

また、美容整形でしわ取りに使うボトックスを頭や首、額などに注射すると、片頭痛や群発頭痛が軽くなるという報告があります。米国では特に慢性片頭痛でよい成績が出ています。日本ではまだ未承認ですが、今後の動きが注目されます。

金沢医科大卒。九州大病院、九州厚生年金病院、飯塚病院などを経て現職